

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.58 July, 2010

---

<b>企画案内</b> .....	<b>2</b>
第 44 回研究発表会の開催について .....	2
<b>理事会</b> .....	<b>2</b>
平成 22 年度 第 1 回 理事会 議事録 .....	2
法人移行の検討状況について .....	6
<b>企画委員会</b> .....	<b>6</b>
平成 22 年度 第 1 回 企画委員会 議事録 .....	6
<b>編集委員会</b> .....	<b>8</b>
平成 22 年度 第 1 回 編集委員会 議事録 .....	8
<b>国際対応委員会</b> .....	<b>9</b>
国際対応委員会活動報告 .....	9
<b>放射線防護標準化委員会</b> .....	<b>9</b>
第 8 回放射線防護標準化委員会 議事録 .....	9
第 9 回放射線防護標準化委員会 議事録 .....	10
<b>大学等教員協議会</b> .....	<b>11</b>
学生研究優秀賞の設置 .....	11
<b>若手研究会</b> .....	<b>11</b>
活動報告 .....	11
<b>学友会</b> .....	<b>12</b>
活動報告 .....	12
<b>専門研究会報告</b> .....	<b>12</b>
放射線教育の推進支援に関する専門研究会 (SUTRA) .....	12
ラドンの防護規準に関する専門研究会 .....	13
<b>学会掲示板</b> .....	<b>13</b>
第 50 回日本保健物理学会 総会議事録 .....	13
第 3 回アジア・オセアニア放射線防護会議 (AOCRP-3) 報告 .....	14
総会案内・登録の Web 化の実施結果 .....	15
インターネットグループの活動 .....	15
メーリングリストへのアドレス登録のお願い .....	16
<b>会員へのお知らせ</b> .....	<b>16</b>
放射線影響・放射線防護オンライン用語辞典について .....	16

---

---

## 企画案内

### 第 44 回研究発表会の開催について

第 44 回研究発表会（大会長石田順一郎氏（原子力機構））は、2011 年 6 月 15 日（水）から 17 日（金）までの 3 日間、茨城県東海村近郊で開催されます。主会場は水戸駅周辺となる予定です。2011 年は、日本保健物理学会の前身である Health Physics Society 日本支部結成準備委員会が昭和 36 年（1961 年）9 月に発足してから 50 年目となる節目の年でもあり、会期中に 50 周年記念事業（記念講演会等）も計画されています。詳細については適宜学会誌、学会ホームページにて周知いたします。学会員の多数のご参加をお待ちしています。

（原子力機構 百瀬琢磨）

## 理事会

### 平成 22 年度 第 1 回 理事会 議事録

日時：平成 22 年 4 月 15 日（木） 13:30 - 19:00

場所：日本原子力技術協会 会議室

出席：理事：金子（会長）、近江、小佐古、太田、村山、杉浦、鈴木、服部、百瀬、安岡、猪俣

参与：河野、藤原 旧参与：小池、鈴木 委任出席：酒井

#### 【議事】

#### 1. 理事会メンバーの交替について

新たに若手参与となった河野参与、藤原参与、若手参与を退任する小池前参与、鈴木前参与から挨拶がなされた。なお、今回の参与の変更については、4 月 1 日付けの若手研究会の人事異動に伴うものであり、既に会長より全理事に通知済みのもの。

今後、若手研究会の人事周期を理事会の人事周期と合わせることにについて若手研究会において検討することとされた。

#### 2. 前回議事録の確認

資料 1-1（マージング理事会 H21-25～26、H22-1,2 を含む）について、メールによる事前配布以降の修正点等について説明があり、承認された。

#### 3. 編集委員会活動状況報告について

資料 1-2-1 に基づき、服部理事より、学会誌出版状況、電子ジャーナルの進展状況、IF の具体的な取得への手続き、投稿規程・手引きの改定について報告された。

J-STAGE への登録作業委託契約は締結（3/1 付）。登録作業を 6 月下旬に開始すべく講習業者と連絡中。一方、CiNii への掲載は、第 44 巻 3 号で終了。

IF 取得審査は、直近の 3 学会誌（6,9,12 月号）が審査対象となることから、2010 年度は一層上質の投稿勧誘をお願いする。

IF 取得対策として投稿規程・手引きを改定。近日中に和文・英文論文投稿用テンプレートを学会 HP に掲載予定。

関連して、契約書の正は総務理事が保管することとして、各理事は引継ぎ資料を確認し、契約書（正）があれば、総務理事に引き渡すこととした。

また、各理事において学会に大いに貢献された方の訃報を入手した場合、速やかに理事会に報告することとした。

IF 取得活動については、広く会員へ周知し、会員へも協力を要請することとした。

#### 4. 企画委員会活動状況報告について

資料 1-2-2 に基づき、百瀬理事より、企画委員会委員・インターネットグループメンバー、平成 22 年度活動計画、専門研究会の活動状況、日本放射線安全管理学会共催行事、放射線安全管理教育連絡会の終了について報告された。

「放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会」については、22 年度延長とするか、次ステップの専門研究会となるか次回企画委員会で検討する。

平成 22 年度事業計画について、法人化検討とも関係するが、会員であることにメリットを感じられる工夫が必要であり、企画行事の先行的・積極的立案、企画ネタの分野別掘り起こし、情報の配信方法（HP における会員ページの設置等）における会員と非会員の差別化など、更に工夫しながら進めることとされた。

放射線安全管理教育連絡会の終了に伴い、活動成果（アンケート調査結果等）をまとめ、HP 等を利用して、会員への情報提供が可能か検討いただくこととされた。

#### 5. 放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討委員会活動報告について

資料 1-10 に基づき、百瀬理事より、放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討結果について報告された。

検討結果報告書については、理事会で受理し、学会 HP により公開する。学会としての今後の対応について議論された。

報告書を受けて直ちに要望書を厚生労働省へ提出することについては、

- ・医療免許を持たない人が多い学会としてのアクションとして相応しくない、
- ・製薬の申請といった局所的な対応でなく現場のニーズとして防災計画全体に対する働き掛けとすべき、
- ・医学系の学会は大臣宛かもしれないが、保物のカルチャーはまず課長クラスへの要望ではないのか、大臣宛文書提出のような前例はない、
- ・学会からの要望とするには、学会員全体の意見を聴取する過程を踏む必要がある、

という意見と、

- ・タイミング・距離を置きすぎると、アクションを期待する会員の失望感に繋がる可能性がある、
- ・Pu 除去剤についての検討については、医学界より保物が先行していた歴史から保物がアクションすることが有意義、
- ・大臣宛の要望書提出は、業界としては通例の手続きである

という意見があったが、現時点ではこの報告書を要望として利用いただき、保物学会としては防災計画としての位置付けを専門委員会等で検討し、関連当局に働きかけることとされた。

#### 6. 国際対応委員会活動状況報告について

資料 1-2-3 に基づき、服部理事より、委員会体制、IRPA 対応、AOARP 対応、日中韓連携、平成 22 年度活動方針について報告された。

橋本委員、山外委員の退任に伴う河野氏（JAEA）の委員就任について承認された。

AOCR-4 開催地、AOARP 次期会長候補の選出、IRPA 理事の地域代表について、AOCR-3 会期前を目途に検討することとされた。

日中韓連携については、インターネットコミュニケーション、学会誌投稿の活用を考慮することとされた。

#### 7. 放射線防護標準化委員会活動状況報告について

資料 1-2-4 に基づき、鈴木理事より、第 8 回委員会状況、「重要な概念」解説書作成作業状況、平成 22 年度活動計画、委員の改選について報告された。

委員会で選任された次期委員会委員全員が承認された。

#### 8. 大学等教員協議会活動状況報告について

資料 1-2-5 に基づき、安岡理事より、前回理事会審議を踏まえた学生研究優秀賞の設置、「学会賞選考委員会運営規則」及び「学会賞選考委員会運営細則」について提案され、承認された。

なお、「工業専門学校等」については医療系（診療放射線技師等）の短期大学生・専門学校生や場合によっては高校生も含め運用すること、大学等教員協議会における一次選考においても審査項目・採点基準を設置する等数値化・客観化した方式を採用すること、応募書式は学会賞選考委員会宛とすることとされた。

#### 9. 広報関係について

資料 1-2-6 に基づき、近江理事より、原子力総合シンポジウム 2010 運営委員、第 47 回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員としての活動状況、並びに総会案内合理化の ML 案内結果について報告された。

今後、総会の出欠席、委任手続き用の Web ページを学会ホームページにアップすることとされた。

#### 10. 会計関係について

資料 1-2-7 に基づき、村山理事より、平成 21 年度の収支計算書、貸借対照表、財産目録、科目明細、監査結果、平成 22 年度の概算予算案、収支予算案について報告され、了承された。

平成 22 年度予算については、収入面において幽霊会員の整理等による実質会員数を見込んだ現実的な額とする一方、支出面において学友会 AOCR-3 参加補助、J-STAGE 追加、事務委託費増加、法人化検討、選挙経費等に伴う支出増が見込まれることから、各委員会関係予算要望については一律 3%削減

---

する，一時的な支出増については保健物理研究助成金を充当する，収益と見なされないよう次年度繰越金は予算段階で計上しないこととされた。

11. 若手研究会活動状況報告について

資料 1-2-9 に基づき，河野参与より，第 7 回若手勉強会，原子力安全委員会パブリックコメント対応，保健物理 45-1 号「若手研のページ」執筆，AOCRP-3 ポスター発表，平成 22 年度活動計画，若手研究会メンバーについて報告された。

若手研究会の活動について，今後とも学友会との連携・支援の一層の強化を図ること，女性研究者・技術者の活性化及び活躍できる仕組みの構築を検討することとされた。

12. 学友会活動状況報告について

資料 1-2-10 に基づき，鈴木前参与より，第 3 回学生発表会印象記の学会誌掲載，AOCRP-3 Student Session 準備状況，第 4 回学生発表会(平成 22 年 12 月頃)開催予定，学生会員人数について報告された。

学友会活動について，今後訪問研究者会 (Visiting researchers Community: ViC) との連携を深め，その活動状況も合わせて報告すること，正学生会員の勧誘を積極的に図ることとされた。

13. AOCRP-3 準備状況について

資料 1-3 に基づき，小佐古理事より，スケジュール，口頭発表セッション及び学生セッションの調整状況，参加登録及び提出物登録状況，RPD 編集委員会状況，Technical Visit について説明された。

会期中，小部屋が用意してあるので，必要な委員会等は AOCRP-3 事務局に連絡すること，アルゼンチンでの IRPA 総会で提案された地域枠に関して IRPA との会談をするための事前準備を国際対応委員会にて検討することとされた。

学友会の AOCRP-3 活動に対する予算については，学会から AOCRP-3 事務局に渡すこととされた。

14. 平成 22 年度学会賞について

資料 1-4 に基づき，杉浦学会賞選考委員会委員長より，受賞候補者の推薦，選考過程の概要報告，今後の課題についての報告がなされた。

審議の結果，下記のとおり決定した。

[論文賞] 1 件

標題: "Verification of Validity of Isotope-Specific Exemption Level for Surface Contamination Using Monte Carlo Calculation"

授賞候補者名: 荻野晴之(電中研)，服部隆利(電中研) 2 名

[奨励賞]，[功労賞・貢献賞]: 該当無し

学会賞選考委員会から報告された今後の検討課題について，技術賞的なものは取って設けず論文賞枠内で合わせて検討すること，論文賞推薦と奨励賞推薦とは学会賞選考委員会の選考過程において柔軟に対処すること，賞の選考過程で漏れたものの学会誌等における紹介については微妙な問題を含むものであり控えることとされた。

15. 共催依頼について

資料 1-5-1，-2 に基づき，猪俣理事より，応用物理学会放射線分科会が主催する「放射線夏の学校」への共催参加申し入れ，及び放射線医学総合研究所からの「環境トロンに関する国際ワークショップ」の後援依頼について説明され，承認された。

16. 第 50 回総会の準備状況について

資料 1-6 に基づき，猪俣理事より，第 50 回総会の開催日時，議案，準備スケジュール，総会案内と委任状の合理化状況について報告された。

議長，書記候補者について AOCRP-3 実行委員会で検討する，Web 利用と回答した約 3 割の会員以外には従前同様往復はがきで総会案内することとされた。

17. 第 51 回総会開催地について

資料 1-7 に基づき，猪俣理事より，原子力研究開発機構殿より第 51 回総会(第 44 回研究発表会)を茨城県東海村近郊において開催の希望があったことについて報告され，承認された。

18. 次期役員選挙について

資料 1-8 に基づき，猪俣理事より，次期役員選挙の手続き，スケジュール等について説明があり，各理事において選挙管理委員候補を推薦し，メーリング理事会にて審議・承認することとした。

19. 入退会等について

資料 1-9 に基づき，猪俣理事より平成 21 年度末の会員状況，平成 21 年度末の会員整理状況，特別会員委員の推薦，通常の入退会について報告され，審議の結果，以下の入退会等について承認された。

会費納入状況から見て、幽霊会員が相当数存在していることから、会員整理を継続することとされた。

特別会員： 安本正

入会：（正会員）北島英明，倉石政彦，飯塚裕幸  
（準学生会員）新谷俊幸，藤通有希

（団体会員）茨城県立医療大学付属図書館，社団法人日本アイトープ協会

退会：（正会員）鈴木隆司，江尻和隆，宮崎振一郎，海野泰裕，志野木正樹，中村祥平  
藤野卓，服部隆光，石井敬一郎，西田常夫，森藤将之，伊藤彬，  
仲野和人，間中隆，伊藤昭好，山本吉之，内山禮子，新谷俊二，  
那須為行，飯田治三，江橋勝弘，橋本義大，加藤勉，古田純一郎  
郷田正，吉田浩樹，石田恵一，佐藤勝，渡邊立子，中尾祐次，  
杜慶燾，高橋博路，望月真吾

（賛助会員）株式会社 E&E テクノサービス，（財）原子力安全研究協会，  
原子力環境整備促進・資金管理センター

その他：（賛助会員口数変更）株式会社アトックス

（会員種別変更）（財）国際医学情報センター（個人 団体）

## 20. 法人化 WG の活動状況について

資料 1-11 に基づき、猪俣理事より、法人化 WG で検討した財政面、移行工程、会員メリットの途中検討状況、及び総会における報告について報告された。

法人化された場合の財政状況シミュレーションについては、収入面で、会員数の増加に伴う会費収入は大きくは期待できないことから、企画行事等に伴う事業収入について、更に検討を加えることとされた。任意団体から法人への移行工程については、WG での検討を更に細部にわたり検討する必要がある、今後は専門のコンサルタントに委託しこの結果を受け精緻化することとされた。

会員のメリットについては、財政基盤確立、保物分野の若手人材育成のためにも、更なる活動の強化策について、今後若手参与にも WG に参加してもらい検討することとされた。

次回総会報告については、これら作業を進めることについての了解を求める。次々回総会で非営利型一般社団法人への移行審議が可能となるための精緻化作業を平成 22 年度に実施することを「法人化準備計画」として平成 22 年度事業計画の中で承認を受けることとされた。

## 21. 学会事務局について

金子会長より、平成 22 年度予算作成過程における学会事務局との学会事務経費に係る交渉状況が説明された。現学会事務局においては「人件費等の増大により事務代行業務が損益分岐を超え赤字に転落してしまう状況にあり、来季からの契約については契約満了で解約させていただきたい」との申し入れがあった。平成 22 年度については事務委託費の若干の増額で直近の解約を回避できたものの、危機的状況には変わりなく、法人化検討とは別に新たな事務委託先について検討することとされた。

## 22. その他

次回理事会については、7月9日（金）とした。

以上

## 以下メーリング理事会

### 23. 選挙管理委員の承認について[メーリング理事会 H22-3]

平成 22 年度選挙管理委員会の委員として次の 5 名が推薦され、承認された。（5月13日付）

伊知地猛（電中研），飯塚光由（東芝），小池裕也（東大），高嶋秀樹（JAEA），林宏二（東電）

### 24. 編集委員会委員の承認について [メーリング理事会 H22-4]

服部編集委員長より依頼のあった次の編集委員会委員の追加について、承認された。（5月20日付）  
吉富寛（JAEA，若手研）

### 25. 第 44 回研究発表会実行委員会委員長について【メーリング理事会 H22-5】

百瀬理事より推薦のあった次の第 44 回研究発表会実行委員会委員長候補について、承認された。（5月20日付）

石田 順一郎（JAEA）

### 26. 入退会の承認について [メーリング理事会 H22-6]

以下の入退会について、承認された。（6月11日付）

入会：（正会員）當間秀樹，高橋秀仁，遠藤邦明，武田聖司  
（準学生会員）ムスタファ・アーメド，青木克憲

---

退会：（正会員）富重正蔵，森口強，法村俊之，新谷貞夫  
（団体会員）信州大学附属図書館医学部分館，国際輸送規則調査検討会  
（賛助会員）日本原子力保険プール  
会員種別変更：（準学生会員 正会員）外間 智規

## 法人移行の検討状況について

当会の法人化については、平成 19・20 年度においては「法人制度検討WG」、平成 21・22 年度においては「法人化WG」が理事会の元に置かれ、活発な検討が進められ、本日に至っています。

第 50 回総会では、これまでの検討状況について、以下のとおり報告し、承認されました。

### 【第 1 号議案 平成 21 年度事業報告】

1 - 5 その他

#### 1) 法人化に関する検討

平成 21 年度においては、会員の実態把握等、学会の法人化に向けての基盤整備を進めてきたが、さらに強力に進めるため、理事会の下に「法人化ワーキンググループ」を設置し具体的な検討を開始した。制度面の検討については、すでに法人制度検討 WG で十分検討され、その検討の中で望ましいとされた非営利型一般社団法人への移行を前提とした。課題とされていた法人運営の経理的基礎について、収入・支出についてのラフな想定に基づき成立するか否か等の検討を行った。

### 【第 4 号議案 平成 22 年度事業計画】

(11) 学会の法人化については、次回総会で非営利型一般社団法人への移行審議を可能とするための準備作業を行うこととし、法人化に関する細部にわたる検討については専門のコンサルタントに委託する。また、本件についての検討経過については、適宜会員に周知する。

総会後の平成 22 年度第 2 回理事会においては、

- ・定款については、普遍性を持たせた長期的な視点に立ち、一般社団法人雛形をベースに作成する方向とし、下位の規定類についても体系を構築する。
- ・これまでの活動は、基本的に継続し、経営基盤を確保するためにも、職能機能、社会機能を充実させる。
- ・事務局については、財政的な観点から、当面は委託型とし、候補に見積もりをもらう。
- ・法人化の検討状況について、法人化移行決議総会前に、少なくとも東西 2 箇所、適切な機会を見つけて説明会を開催する。
- ・以上について、専門家と契約し、その助言を得ながら進める。

といった方向で進めることとしました。

近々、学会HPに、検討状況を掲示する法人化のコーナーを設置しますので、ご覧いただき、皆さんの意見をお寄せ下さい。

（原技協 猪俣一郎）

## 企画委員会

### 平成 22 年度 第 1 回 企画委員会 議事録

日時：平成 22 年 5 月 14 日(金) 13:30～17:00

場所：原子力研究開発機構東京事務所

出席：百瀬(委員長)、近江、飯本、伴、林、南、山崎、中田(幹事)

#### 【配布資料】

- 資料 1-1 第 4 回企画委員会 議事録(案)
- 資料 1-2-1 平成 21 年度第 6 回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 資料 1-2-2 平成 22 年度第 1 回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 資料 1-3-1 平成 22 年度企画委員会活動計画について
- 資料 1-3-2 今年度の企画行事について
- 資料 1-3-3 第 7 回 JRSM 6 月シンポジウム
- 資料 1-3-4 AOCR-3 企画委員会ポスター案

- 
- 資料 1-4-1 ラドン測定標準化専門研究会報告
  - 資料 1-4-2 ラドンの防護規準に関する専門研究会報告
  - 資料 1-4-3 放射線教育の推進支援に関する専門研究会報告
  - 資料 1-4-4 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告
  - 資料 1-4-5 医療放射線リスク専門研究会報告
  - 資料 1-4-6 大学における放射線安全管理教育連絡会最終報告
  - 資料 1-5 インターネットグループ ( I G ) の活動について
  - 資料 1-6 広報関係報告
  - 参考資料 1-1 平成 22 年度企画委員会委員名簿【議事】

#### 【議事】

##### 1. 第 4 回企画委員会議事録確認

資料 1-1 に基づき、前回会合の議事録を確認し、了承された。

##### 2. 理事会報告

資料 1-2-1,1-2-2 に基づき理事会での議事・報告事項を確認した。

##### 3. 企画行事について

資料 1-3-1 ~ 1-3-2 に基づき、今年度企画行事について検討した。医療放射線リスク専門研究会の報告書がまとまることから伴委員および南委員を中心として、シンポジウムの企画案を検討することが確認された。

また、資料 1-3-3 及び 1-3-4 に基づき、第 7 回 JRSM 6 月シンポジウムと AOCRP-3 企画委員会ポスター案の紹介があった。

##### 4. 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から資料 1-4-1 ~ 1-4-6 に基づき以下の報告があった。(詳細は Newsletter 各専門委員会報告を参照)。

(1) ラドン測定標準化専門研究会は、平成 22 年 3 月 3 日に「ラドン測定標準化及び関連の国際動向に関するシンポジウム」を開催し、専門研究会報告書について紹介するとともに、提言について広く意見をもとめ、最終的な報告書とりまとめに反映したとの報告があった。

(2) ラドンの防護規準に関する専門研究会は、平成 21 年度は、今後の活動方針の検討を行い、3 月にラドン測定標準化専門研究会と合同のシンポジウムを開催した。今年度は、若手委員を中心として過去のラドン関連の専門研究会の報告書や国際機関の動向をレビューする旨の報告があった。

(3) 放射線教育の推進支援に関する専門研究会は、平成 21 年度 3 回の各地域意見交換会を実施した。その他に、現在の中学校の放射線教育に係る会員の活動実績の調査を行った旨の報告があった。本件に関し、企画委員から他組織と合同の活動で専門研究会としての活動を切り分けて報告書を出せるのかについて、確認する必要がある旨の意見があった。また、企画委員の本専門研究会担当者として、近江委員が就任した。

(4) 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会は、平成 21 年度、将来に向けて今後の新しい放射線安全のパラダイムやそれに基づく原則に議論を展開するための足がかりとして、前年度の一連の実情調査の中で中心的な話題となった「世界的な大きな動向」について詳細なレビューを行いつつ、研究会設置一期目としてのまとめを行った旨の報告があった。

(5) 医療放射線リスク専門研究会は、21 年度 2 回の会合を開き、前年度に実施した論文レビューのまとめを行うとともに、医療放射線のリスク評価をめぐる諸問題について議論した。報告書の主な内容は、医療被ばくのリスクに関する論文のレビュー、低線量リスク評価に関する主要国際機関の見解、医療被ばくのリスクに関する論点の整理、医療被ばくリスクの理解に向けて(全員討論)、となっており、近日中に完成する予定である旨の報告があった。

(6) 大学等における放射線安全管理教育連絡会は、当初の目的を達したこと及び委員各位の諸般の事情のため、終了する旨の報告があり、理事会で承認された。なお、理事会での報告の際に活動の成果をホームページで公開する旨の指示があった。

##### 5. インターネットグループ報告

資料 1-5 に基づき、報告があった。Newsletter No.58 は、6 月下旬に発行予定とした。また、学会 HP の企画委員会名簿の英語版の原稿が古いため、差し替えることを確認した。

##### 6. 広報報告について

---

資料 1-6 に基づき、総会案内および総会参加・委任手続きの WEB 化について報告があった。メーリングリスト登録者数の約半数が WEB 登録し、登録者数の 85% 近くが WEB 登録を完了している。この結果、ハガキ回答者数と合わせて総会成立会員数に到達したとの報告があった。

7. その他

次回の会合は、7 月下旬で調整する。

(原子力機構 中田陽)

## 編集委員会

### 平成 22 年度 第 1 回 編集委員会 議事録

日時：平成 22 年 6 月 4 日(木) 13:30~17:00

場所：電力中央研究所(東京・大手町) 第 4 会議室

出席：服部(委員長)、佐々木(幹事)、横山、真田、中野、三枝、石森、森泉、林(克)、林(宏)、古田、山口、大倉(若手)、吉富(若手)、笠原(事務局)

#### 【配布資料】

- 1-1 平成 21 年度第 5 編集委員会議事録(案)
- 1-2-2 J-STAGE チェック体制に関する資料
- 1-2-3 記事の機関リポジトリ掲載について
- 1-3 編集委員作業分担に関する資料
- 1-4 企画記事などの分担表、J to W 及び巻頭言のリスト
- 1-5-1 A パート進捗状況
- 1-5-2 B パート進捗状況
- 1-5-3 C パート進捗状況
- 1-5-4 若手記事の提案
- 1-5-5 対応状況リスト
- 1-6 45-2, 45-3 号編集状況

#### 参考資料

- 1-1 H22 年度編集委員名簿
- 1-2 海外発送先
- 1-3 学協会著作権ポリシーDB に関する資料
- 1-4 AOCRP-3 編集委員会ポスター
- 1-5 覚書参考資料

#### 【議事】

委員会冒頭に 5 月より編集委員(若手)に着任した吉富寛氏より自己紹介がなされた。

1. 前回議事録の確認  
平成 21 年度第 5 回編集委員会の議事録(案)が承認された。
2. 電子ジャーナル及びオンライン学術データベース登録に係る確認  
Journal@rchive, Web of Science への登録申請と、J-STAGE の状況について確認した。Web of Science への登録申請に際し、45-2 から 3 号をトムソンロイター社に送付する。冊子が適宜発行されていることを示すため、校正等の編集時期について、これまでより若干早めの期限になることを確認した。J-STAGE は今後アップロード研修を経て 44-1 より順次公開対象としていくこと、編集後記が割り当てられた各委員が、当該号の掲載内容チェックを行なうことを確認した。また、著作権ポリシーDB に登録する論文公開の方針について確認した。
3. 編集委員の作業分担の確認  
話題、若手研及び学友会の記事について、各カテゴリの記事内容の確認と編集委員の作業分担について確認した。若手担当の編集委員が A パート幹事と著者(主査)の間で記事の調整を担当していくこととなった。
4. 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認  
企画記事の提案について現状と今後の予定を確認した。2011 年は保健物理学会創立 50 周年記念となることから、JAEA の理事長に巻頭言をお願いする旨が報告された。
5. 各パート進捗状況  
45-1 号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より報告された。また、委員長より、AOCRP-3 に



において海外からの参加者多数に原稿を依頼したことが報告された。

#### 6. 45-2,45-3 編集進捗状況の確認, 論文審査状況

編集事務局より, 同号の編集状況, 論文審査状況について報告され, 確認した。

#### 7. その他

メディカルオンラインの対応, 学会誌の印刷費用等と経費削減は次回検討することになった。なお, 次回の会合は, 平成 22 年 9 月 1 日(金)13 時 30 分から, 東京・大手町で開催されることとなった。

(電中研 佐々木道也)

## 国際対応委員会

### 国際対応委員会活動報告

#### 1. ICRP 対応

ICRP 報告書ドラフト「環境防護：標準動植物に適用するための移行係数」がパブリックコメントに供されている旨、ホームページおよびメーリングリストにて発信した。

#### 2. IRPA 対応

(1) 企画委員会、インターネットグループの協力を得て、IRPA からの情報を迅速に周知する仕組みを整えた。今後 IRPA からの連絡は、ホームページ上「会員へのお知らせ」欄に掲載するとともに、メーリングリストにて配信し、円滑な情報展開を図る。

(2) IRPA 規約委員会 (Rules Committee) 憲章の改定案につきコメントを求められ、国際対応委員会で検討した。会長選出の手順、国際大会および地域大会開催に関するルールの整備、途上国若手支援のための委員会設置等が主な内容であり、妥当なものと判断し、その旨コメントを返信した。

(3) IRPA 加盟委員会 (Admissions Committee) より、IRPA 未加盟国の加盟促進案の提案依頼があり、国際対応委員会にて検討を開始した。

(4) 今後の IRPA 対応については、国際対応委員会で検討ののち、理事会を通じて発信することとした。

#### 3. AOARP 対応

(1) AOARP-3 期間中の 5 月 25 日に AOARP 理事会が開催された。

- ・韓国より会長は理事会構成員から選出する等を含む憲章の改訂が提案されたが、合意に至らず検討を継続し、理事会での検討を経て本年末を目途に結論を出すこととなった。

- ・本理事会にて次期会長が決まる予定であったが、憲章の改訂を待って次期会長に引き継ぐこととした。なお、次期会長は日本から選出することとなった。

- ・AOARP-4 の開催地は決定に至らず、オーストラリアおよびマレーシア両国がそれぞれ検討を継続することとなった。

以上の案件については、今後国際対応委員会及び理事会にて検討を進める。

#### 4. 日中韓連携

韓国放射線防護学会 (KARP) より通知。KARP 秋季大会 (11 月 24 日 - 26 日) に合わせ日中韓 3 カ国国際ワークショップが開催される (ニュースレター No.57 にて既報の会期が変更された)。開催地は済州島、テーマは "Radiation Protection Culture"。秋季大会の初日に、各国 2 名 (計 6 名) 及び Ken Kase IRPA 会長による講演と討論を予定しているとの事。詳細が明らかとなり次第、派遣発表者等の検討を開始する予定。

(放医研 酒井一夫)

## 放射線防護標準化委員会

### 第 8 回放射線防護標準化委員会 議事録

日時：平成 22 年 3 月 25 日(木) 16:00 ~ 19:00

場所：中央ビル貸会議室 (水戸市)

出席：小佐古委員長、野口副委員長、金子副委員長、飯本幹事、山本幹事、橋本幹事、鈴木幹事、服部委員、飯塚委員、近江委員、河田委員、猪俣委員、山本委員、中居委員、清水委員、林委員、阿部 (杉浦幹事代理)、山田 (田中幹事代理)、我妻 (白木委員代理)、今津 (渡辺委員代理)

#### 【議事】

##### 1. 幹事会活動について前回議事録の確認

幹事会活動報告がなされた。また、廃棄物と表面汚染の作業会の進捗状況も報告された。

2. 次期標準化委員会委員の選任について

現在の標準化委員会委員は、平成 22 年 3 月 31 日をもって、26 名中 24 名が任期満了となる。次期委員の推薦が委員長よりなされ、満場一致で、次期の委員が選出された。

3. 標準化委員会の運営に関する細則の改正案について

以下の 2 項目が改正案として提案され、審議の結果、次の細則(関係部分抜粋)で承認された。

第 6 条第 2 項(5)g

「委員長は、投票の結果を書面により速やかに、委員全員に通知しなければならない。また、意見付き保留があった場合、投票の結果を委員長了解のもと、すみやかにその意見を委員全員に通知すると共に、提案者は保留意見への見解を作成し、委員全員に通知する。」

第 6 条第 4 項(追加)

電子メールによる審議等について

審議および決議を要する議案のうち、第 6 条 2 項(4)で定める投票を要する議案を除いて、緊急性を要する場合については、委員会を開催せずに、電子メールで審議し、決議することができることを確認した。電子メールによる審議および決議は以下のとおりとする。

- (1) 電子メールによる審議および決議を求める議案が委員から提案された場合には、委員長が副委員長と協議して、その実施の可否を決定する。
- (2) 前項で電子メールによる審議および決議を要するとされた議案については、決議を行う必要性並びに審議に必要な資料を全委員に送信する。また、委員長は各委員に賛否の意思表示を求める。
- (3) 各委員は、電子メールで、委員長に賛否の意思表示を行う。意思表示の締め切りは原則として投票様式の発送後一週間以内とするが、委員長の判断で延長できる。
- (4) 委員総数の 3 分の 2 以上の賛成が得られた場合には、それをもって可決とする。
- (5) 委員長は、電子メールによる審議および決議の結果を速やかに委員に電子メールで通知する。

4. 平成 22 年度予算案について

標準化委員会の平成 22 年度予算案の報告がなされた。学会の来季の財政情勢が厳しいことを受け、削減等の要請があり、具体的対応について幹事会が検討することになった。

5. 重要な概念の報告書について、

重要な概念の解説書の原稿(案)がほぼ完成。確認次第出版の予定。平成 21 年度第 5 回編集委員会の議事録(案)が承認された。

**第 9 回放射線防護標準化委員会 議事録**

日時：平成 22 年 5 月 26 日(水) 17:30 ~ 18:30

場所：船堀タワーホール 307 会議室

出席：小佐古委員長、金子副委員長、杉浦幹事、飯本幹事、山本幹事、橋本幹事、鈴木幹事、猪俣委員、飯塚委員、近江委員、河田委員、清水委員、林委員、保田委員、山西委員、山田委員、佐藤(ニッ川委員代理)、我妻(白木委員代理)、荻野(服部委員代理)、阿部(山澤委員代理)、山田(齋藤委員代理)、今津(渡辺委員代理)

**【議事】**

1. 委員長選挙について

運営細則に基づき、標準化委員会委員長の選挙が行われ、満場一致で、小佐古敏荘氏(東大)が再任(3 期目)された。

2. 新執行部体制について

運営細則に基づき、副委員長並びに幹事の指名があった。

副委員長：金子正人(放射線影響協会)、杉浦紳之(近畿大学)、山本英明(日本原子力研究開発機構)

幹事：飯本武志(東京大学)、鈴木 晃(東京電力)、服部隆利(電力中央研究所)、近江 正(日本原子力発電)、山本正史(原環センター)

(東京大学 飯本武志)

---



---

## 大学等教員協議会

### 学生研究優秀賞の設置

今年度、新に学生研究優秀賞が学会賞として加わる予定です。2011年2月ごろに募集予定です。なお、選考につきましては、大学等教員協議会が一次選考を行い、賞選考委員会へ推薦する予定です。大学院博士課程（後期博士課程）、修士課程（前期博士課程）、大学学部、高等専門学校などの学生の会員を対象とし、社会人学生も応募可能としています。詳細は、安岡（yasuoka@kobepharm-u.ac.jp）までお問い合わせください。

（神戸薬大 安岡由美）

## 若手研究会

### 活動報告

#### 1. 状況報告

平成22年度より、若手研究会（以下、若手研）の主査と幹事が交代し、新体制となりました。平成22、23年度の2年間を、主査：小池裕也（東京大学）、幹事：荻野晴之（電力中央研究所）・河野恭彦（日本原子力研究開発機構）のメンバーで支えていきたいと思っております。まだまだ至らぬ点も多いと思っておりますが、皆様からの暖かいご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最近の主な活動として、主査・幹事会合をAOCR-3開催初日の平成22年5月24日にタワーホール船堀405会議室にて開催いたしました。主な議題は以下の通りとなっております。

- (1) 主な活動実績及び今後の計画立案
- (2) OECD/NEA Science & Value 対応について
- (3) 第8回及び第9回若手勉強会について
- (4) JHPS 学会誌（若手研究会のページ）

#### 2. 活動実績及び活動計画

若手研究会の活動実績をご報告いたします。今後も若手らしい企画を展開し、若手からの情報発信を行うとともに、内容の濃い活発な活動を行っていく予定です。ご期待下さい。

活動実績（平成22年4月以降）

- 4/9 第1回主査・幹事会
- 4/27,28 OECD/NEA 東京サテライト会合
- 5/17 原子力学会 ATOMO 「報告」への投稿
- 5/21 ICRP ドラフトレポートに対する若手コメント募集
- 5/24 第2回主査・幹事会
- 5/25 AOCR-3 におけるポスター発表
- 5/28 女性研究者・技術者を対象とした意識調査の実施

活動計画

- 8/2-4 「第17回放射線夏の学校」における若手研からのポスター発表
- 8月下旬 第8回若手勉強会（東京）「テーマ：環境安全」
- 10月 第9回若手勉強会（東海）「テーマ：内部被ばく」

#### 3. 原子力学会 ATOMO 「報告」への投稿

2010年3月5日に開催した第7回若手勉強会「新ICRP主報告の国内法令取り入れに対する電気事業者としての考え方」での議論を整理し、「国際放射線防護委員会(ICRP)2007年報告の国内法令取り入れに対する若手独自の観点からの考え」と題して、日本原子力学会誌 ATOMO の「報告」に投稿しました。

#### 4. AOCR-3 ポスター発表について

AOCR-3 において、「Report on Recent Activities of the Young Researcher's Association for Japan Health Physics Society and the Future」と題するポスター発表を行い、国内外からの参加者に対して若手研の最近の活動について情報発信をしました。さらに、理事会枠のポスターでは、同様の内容について日本語でもポスター発表を行い、新規若手研員を勧誘した結果、新たに2名の方に加入して頂きました。

#### 5. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は44名（平成22年7月1日）です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

い。

(主査) 小池 裕也(東京大学) E-mail:koi@ric.u-tokyo.ac.jp

(幹事) 荻野 晴之(電力中央研究所) E-mail:haruyuki@criepi.denken.or.jp

(幹事) 河野 恭彦(日本原子力研究開発機構) E-mail:kono.takahiko@jaea.go.jp

(東京大学 小池裕也)

## 学友会

### 活動報告

今年5月24日から27日にかけて国際学会であるAOCRP-3が開催され、最終日には学友会が企画した学生セッションを実施しました。セッションの前半では「Academic activities and career plans of students from Asia and Oceania」のテーマで、各国の研究活動やキャリアプラン等について意見交換をしました。また、後半は「The present situations and issues of radiation applications in Asia and Oceania」のテーマで、3つの会場に分かれ、それぞれ放射線の農業利用、医学利用および産業利用に関する各国の異なる状況や問題点について議論しました。セッションに参加した学生は、国内から19名、韓国、中国、ベトナム、オーストラリア、タイおよびインドなど国外から16名と大変多く、会期中は国内外問わず7人部屋で共同生活を送り、学友会メンバーは皆積極的に外国学生とコミュニケーションをとりました。今後も、このような国際的な活動の実施を視野に入れ、学友会を発展させていきたいと考えています。



会期中は国内外問わず7人部屋で共同生活を送り、学友会メンバーは皆積極的に外国学生とコミュニケーションをとりました。今後も、このような国際的な活動の実施を視野に入れ、学友会を発展させていきたいと考えています。

(東京大学 谷幸太郎)

## 専門研究会報告

### 放射線教育の推進支援に関する専門研究会(SUTRA)

本研究会は、現在の全国の中学校への放射線教育の支援活動の実態把握を進めながら、各地域の活動を支援する方策を探っている段階である。平成22年度は、既に5月の総会で報告された活動調査の後、中部地域と首都圏のそれぞれの活動の活性化を進める観点から関係者間の意見交換が進められた。まず、6月2日に中部原子力懇談会(名古屋市)の招きに応じ、青森県での霧箱出前授業の現状を紹介し、中部地域での教育支援活動として、愛知教育大学附属中学校羽済大介教諭、愛知県立熱田高校大津浩一教諭、静岡大学理学部奥野健二教授、同大教育学部(附属中学校長)熊野善介教授他と意見交換が行われた。高校、小学校への出前授業の実績に比べると中学校への実績は少なく、今後の進め方について検討課題とされた。また、首都圏活動として6月22日に東京都中学理科教育研究会会長の高島勇二氏(練馬区豊玉北中学)との意見交換の他、7月1日に原産協会において、東京電力担当者と共に、(社)茨城原子力協議会の橋本武次常務理事から、茨城県の原子力放射線に関する教員研修の現状についてご報告頂き意見交換が行われた。茨城県はJCO事故後の防災対策の理解普及を主眼に、平成15年度より原子力・放射線に関する小中学校教員に対する、講義・施設見学を組み合わせた研修が実施されていた。平成20年度までは茨城県全県約800校の先生を2年に1回、年間約400人の教員研修が手厚く行われていたが、平成21年度からは先生への負担感の低減のため、5年間で各校1名の年間130名の研修参加とペースダウンされていた。しかし、小中高とそれぞれの副読本が生徒全員に配布され、それを活用した授業の実践事例の協議を研修中に実施するなど、学校での授業に密着した研修内容で、今後参考になる点が多かった。

青森県内では出前授業の対象拡大が図られ、平成21年度の中学13校の実績に対し、今年度は、新規地域の八戸市内11校、むつ市内6校が計画され、合計30校程度が実施される見通しとなっている。なお、6月7日には、青森県教育委員会橋本都教育長への現状報告も行われた。今後教員研修について意見交換を進める状況となっている。

## 【お知らせ予報】

中部地区の河野孝央委員（核融合研）から「自家製の自然放射線・線源の配布利用の募集について」ご提案があります。具体的な内容は近日中にご案内します。ご関心のある方は、宮川までご連絡下さい。

引き続き、皆さんからの貴重な情報提供と活動提案をお願いします。

（日本原燃 宮川俊晴）

## ラドンの防護規準に関する専門研究会

3月にコアメンバーによる打ち合わせを2回行い、今後の詳細な計画を立てた。現在は、若手委員によって、保物学会の過去の専門研究会のレビューを行っている。また、4名の委員によって、IAEA-BSS、WHO、UNSCEAR、ICRPの動向についてまとめている。いずれも、7月末を目処にそれぞれの資料を作成している。なお、全体打ち合わせを8月中旬に開催する予定である。

（放医研 細田正洋）

## 学会掲示板

## 第50回日本保健物理学会 総会議事録

日時：平成22年5月24日（月）17：40～18：30

場所：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

配布資料：第50回日本保健物理学会総会討議資料

議事概要：

- (1) 猪俣総務理事により定足数の確認後、議長に小佐古敏荘会員（東京大学）、書記に阿部琢也会員（東京大学）が推薦され、承認された。
- (2) 小佐古議長から、本総会の進行について、第1～5号議案までを続けて報告した後に質疑応答の時間を設け承認を行う旨が提案され、承認された。
- (3) 第1号議案「平成21年度事業報告」について、定期刊行物、学術的会合及び事業、総会・理事会、国際協力、その他および会員の状況が、金子会長から報告された。
- (4) 第2号議案「平成21年度会計決算報告」について、収入の部、支出の部および貸借対照表が、村山会計理事から報告された。
- (5) 第3号議案「平成21年度会計監査報告」について、当該事業年度の収支計算書、貸借対照表および財産目録が正しく示されていることが、村上監事から報告された。
- (6) 第4号議案「平成22年度事業計画」について、平成22年度理事会メンバー構成、活動方針、各委員会および新規活動（学生研究優秀賞の新設、学会法人化の検討、会員名簿の再開、学会創立50周年記念事業の実施、会費値上げの検討）が、金子会長から示された。
- (7) 第5号議案「平成22年度収支予算案」について、収入の部および支出の部が、村山会計理事から示された。

- (8) 第1～5号議案について、以下の質疑応答が行われた。（下線部が質疑）

学会の法人化について、理事会の中での現在の検討状況と時期的目標を教えてください。また、法人化をしない選択肢はあるか。（大分県立看護科学大学 伴信彦会員）

検討内容について学会員へ、様々な機会に検討状況を報告するよう努める。時期については、来年の総会で法人化の方法を提案することを目標に詳細を詰めていく。現状では経済的に難しいので、法人化した場合は様々な事業を行うことや事務局の委託をどうするかなどを含め、収支のバランスをシミュレーションしながら吟味している段階である。任意団体では様々な困難を伴うので、法人化をしないという選択肢は考えられず、早い時期に法人化を行う方針。（金子会長）

法人化検討のための費用について、法人化積立金を取り崩すことを考えてもいいのではないかと。会費の値上げの理由が明確ではないので、何かの大きな変化がある時にした方が良いのではないかと。他学協会との統合についての考えがあれば聞きたい。（神戸大学 小田啓二会員）

積立金の取り崩しは、必要があれば検討したい。会費の値上げの理由は、現行や将来の活動のために必要だからである。同様の活動を行っている他学協会（例えば、日本放射線安全管理学会）との統合が提案されているが、設立理由の兼ね合いからすぐには進められない。そのため色々な行事を共同で行う相談はしている。連携・統合の検討も行うが、当学会のみでも法

人化できるように検討を進める必要がある。(金子会長)

他学会との協力について、学会誌で協力関係を結ぶ方向で検討するのはどうか。また、ジャーナルがJ-STAGEに移行していくと、印刷費等が削減できると思われるが、その視点の検討はされているか。(大分県立看護科学大学 甲斐倫明会員)

学会誌については、インパクトファクターを保物誌として申請したところなので、これから世の中に認定されていく流れがある。他学会と統合していく際に、学会誌名をどうするかが議論の対象になる。電子ジャーナル化に伴う費用削減については、刊行費を合理化するために印刷工程を見直したところ、昨年度は過去最大のページ数だったにもかかわらず前年比約 10% 減なので、刊行費の合理化はすすんでいると思われる。電子ジャーナル化による刊行部数の縮減については、今後検討を重ねていく。(服部編集委員長)

(9) 以上の 5 件の議案について、拍手により承認された。

(10) 第 6 号議案「名誉会員の指名」について、金子会長より中村尚司会員が名誉会員として指名され、拍手により承認された。

(原技協 猪俣一朗)

### 第 3 回アジア・オセアニア放射線防護会議 (AOCR-3) 報告

5 月 24 日(月) から 28 日(金) までの 5 日間、東京江戸川区のタワーホール船堀にて第 3 回アジア・オセアニア放射線防護会議 (AOCR-3) が開催されました。

国内からは 325 名、国外からは IRPA、IAEA、ICRP、WHO の国際機関からの参加を合わせた 29 개국 140 名、計 465 名の方にご参加頂きました(内訳は以下の通り、Abstract 提出数: 336 件、Proceeding 提出数: 232 件)。

また皆様のご協力により盛会の内に会議を終えることが出来ました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。なお会議の詳細につきましては、保健物理 Vol.45 No.3 に掲載予定となっております。

AOCR-3 出席者内訳

国名	出席者数	国名	出席者数	国名	出席者数
Australia	7	Indonesia	3	Sri Lanka	1
Austria	3	Italy	1	Sweden	1
Bangladesh	1	Japan	325	Switzerland	2
Bulgaria	1	Korea	55	Taiwan	10
Canada	3	Kuwait	1	Thailand	5
China	17	Malaysia	3	The Philippines	3
Croatia	1	Romania	2	United Kingdom	1
France	3	Russia	2	USA	3
Germany	1	Saudi Arabia	1	Vietnam	3
India	4	Singapore	2	計 29 개국	計 465 名



開会式終了後の集合写真



口頭発表セッション風景



Welcome Party



Technical Visit (筑波コース)

(東京大学 飯本武志)

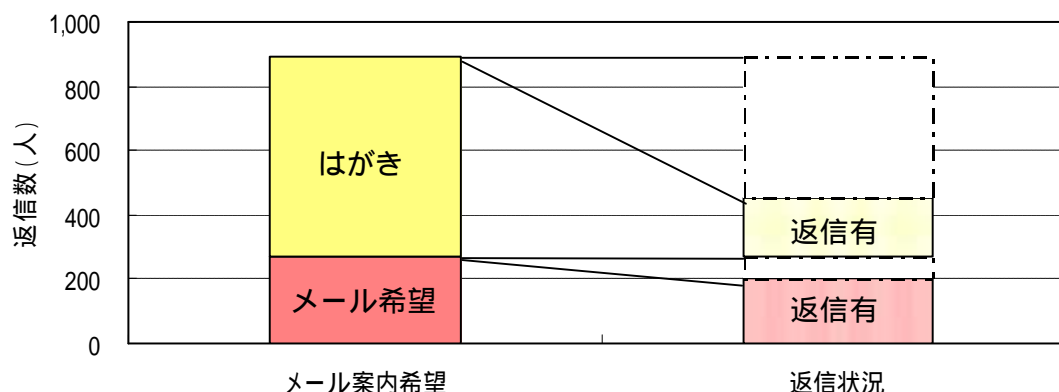
### 総会案内・登録の Web 化の実施結果

総会案内のメール配信、総会出欠の Web 登録の実施結果を報告する。メール配信者の 74% が Web を利用し総会出欠の回答を寄せており、はがき方式の返信率 29% より高い返信率であった。これは、Web 方式により会員の委任手続きが簡素化でき、容易になったことが理由と考える。総会事務局においても委任数が少ない場合にメール配信により回答を促すことも容易になった。

以上のことからメール&Web 方式に移行することは会員サービス向上、コスト削減および業務簡素化の観点から有効であると考えられる。

会員 890 名	メール配信希望 273 名	Web 登録 202 名 返信なし 71 名	返信率 74%
	はがき方式 617 名	返信あり 178 名 返信なし 439 名	返信率 29%

総会出欠連絡の返信状況



一方で、メールリスト登録者が会員の 2/3 程度であること、Web 環境を有しない会員もいることから、メール&Web 方式のみにすることは現状困難だが、メリットを知ってもらい多くの会員が本方式に参加できるよう今後も努めていく。

なお、この活動にはインターネットグループの全面的な協力を得て実施できた。紙面を借りて感謝申し上げます。

(日本原電 近江正)

### インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メールリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動し

---

---

ているメンバーは次のとおりです。

メーリングリスト管理（主査兼務）：山崎 直（原子力機構）  
ホームページ保守：中野政尚・吉富 寛・中川貴博・大倉毅史（原子力機構）  
ニュースレター編集：鈴木敦雄（静岡県）、平尾茂一（名古屋大学）

I G活動へ興味を持たれた方（協力していただける方）、学会ホームページ等活動内容への改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス（jhps@wwwsoc.nii.ac.jp）へメールしてください。

（中部電力 山崎直）

#### メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月 10 件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局（jhps@iva.jp）まで配信先アドレスを連絡願います。

（中部電力 山崎直）

### 会員へのお知らせ

#### 放射線影響・放射線防護オンライン用語辞典について

（財）放射線影響協会では、平成 18 年に放射線影響・放射線防護用語辞典を刊行し、広く皆様にご利用いただいておりますが、平成 21 年 3 月、用語辞典のオンライン版を公開しました。

アクセス方法は、当協会ホームページのトップページ（<http://www.rea.or.jp>）の「用語辞典」ボタンをクリックすると、Index 画面が表示されます。

検索は、アルファベットや 50 音を使つての Index 検索と、調べたい用語を直接入力することによるキーワード検索とが可能です。

検索を開始すると検索条件に応じた用語の一覧が表示されますので、調べたい用語を選択することで、解説画面が表示されます。解説内にリンク先がある場合は、その用語の解説画面に跳ぶことも可能です。

今後、随時、用語の見直し、追加等を行って内容を充実させる予定ですので、どうぞご活用ください。

（財団法人 放射線影響協会）

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：山崎 直（中部電力）